

「京都魔界巡礼団」同行企画

魔界って 第2界 ほん魔界!?

京の魔界を巡らし、そのナゾに迫る「京都魔界巡礼団」、そのオカルト・古代史マニア集団が「京都チャンネル」に乗り込み魔界紀行番組を作ったと聞いて、奇々怪々興味津々と参加志願をした本誌編集部員K。さて魔界の真の姿とは…



中山団長

南副団長

「京都魔界巡礼団」

この世に地獄を再現した!?

小野篁おののたかむら 編

昼は平安貴族として朝廷に仕え、夜は人知れず冥界へ通じる井戸を抜けて地獄の閻魔王の元へ通い、閻魔王庁の裁判を手伝っていた! など数々の奇怪な伝説を残す小野篁。地獄の苦行にあえぐ亡者を極楽往生へ送る秘策を大王から授かった篁が、その行を成す地として建立したとされる千本ゑんま堂内部は、篁が目にした地獄の再現図なのか?

実録・冥界の裁判所体験



本堂奥に鎮座します閻魔王像は高さ2.4mと凄まじい迫力。娑婆(現世)での行いが事細かに記された閻魔帳と尋問に基づいて、地獄行きか、極楽行きか判決が下される地獄裁判所の光景が実在した! 閻魔王のお姿は、5月に催される狂言の期間中とお盆に公開されるほか、予約をすると閻魔王の前でご住職の有り難い説法も聞けるのである。



糸んま堂グッズ、C.O.も閻魔さまの功德に満ちております
戸田妙昭尼/引接寺(千本ゑんま堂) 魔王

あの才女も小野篁ファンだった!?



引接寺(千本ゑんま堂)



開基 小野篁御尊像

小野篁像を拜んで神通力にあやかりたい! 本誌編集部員K/見習い団員!

葬送の地であった運台野(れんだい)に位置する千本ゑんま堂。そもそも「千本」の名は、篁が地獄で授かった? 塔婆(お墓の後ろに立ってるアレ)が1帯に千本も手向けられていたことが起源らしい。そんな諸伝説の主・篁にも熱狂的ファンの影が! その人こそ平安の女流作家・紫式部なのである。その証拠に境内には彼女の供養塔がひっそり。夜な夜な堂内の小野篁像の元に式部が通ってたりして?

■魔界への入口は… 引接寺千本ゑんま堂

京都市上京区千本鞍馬口下ル

■魔界TV1~5の放送は…
京都チャンネル (スカイパーフェクTV! Ch726)
12月中は毎週月曜日21:00~再放送予定

気軽に遊びに来てくれる 生粋の京っ子、老舗っ子

身体もちぢまる寒さはつらいけれど、聖護院かぶら・えび手・九条ねぎ…と実も旨味もきゅっと締まった冬の味を思えば、何だかホクホク暖かくなっていく。そんなパワーを持った京の素材・季節の野菜を使って、家の食卓まで温めてくれるのが「直會撰」のお惣菜。地豆腐と生ゆばを使い煮付けた出汁と具の干し椎茸が含まれた出汁が、口の中だけでは収まらないほどに溢れてくる「東寺煮」。ひな壇の三人官女の様に並んだ「天むす」は、店先のおくどさんで炊かれたご飯の、米一粒ひと粒から味わえる。向かいの本店「とり市」が選んだ食材を大切にした味。店内でなら上質の「おもてなし」の料理も、店に訪ねて来る時は、昔からの親しい顔になってくれる。



直會撰 なおらいせん
京都市中京区寺町通三条上ル
☎075-231-7010
●10:00~21:00
食事は昼11:00~16:00、16:00~23:00(L.O.22:30) / 無休



東寺煮(1個) 200円、天むす(3個入) 400円。おろした海老天をおむすびにした天むすは、海苔と塩漬にした赤味噌で包まれる。どちらも、包みただけならパリッとした食感、時間を置けばごはんと一緒にしっとり馴染んだ食感を楽しめる。



京都のINGを CHECK IT OUT!!

ロコミ情報カタログ

その2

ソトごはん

I am a みやげマニア!!

100年後にも残したい 京都おみやげファイル



創業60年を数える松屋。「おはぎ」の他は、一般のお干菓子などのお菓子が揃っている

ほつてりと艶やか姿で世の甘味ファンを感懐す松屋の「おはぎ」は、20年前に誕生した名物。そのルーツは、砂糖やお米の価値が今の何倍も高かった女将さんの幼少時代、女将さんのお母さんやお祖母さんはお彼岸になると、1つ食べればお腹が膨れる、それは大きな甘いおはぎをこしらえてくれたという。そんな母たちの形見の味を嫁いだ和菓子店で再現しよう!と一念発起。良質の十勝産小豆を大釜で職人さんが2日かかりで煮詰める。甘さの加減は女将さんの舌に基づいたもので、その餡を7・3の米と餅米の割合で炊き、手の平で丸めたこはんに覆いかぶせると、「おはぎ」はようやく完成。お土産にも「まつすく持つてな」と声をかける。思い出せないような丸めたこはんに

口いっぱい頬張った 甘い記憶が名物の礎に

「おはぎ」2個入630円。その日に作ったものしか並ばないので、夕方には売り切れご免となることも



●京菓子 松屋
京都市下京区七条烏丸西入ル南側
☎075-371-5151 8:00~18:00/無休



最終回です!

狙ったわけでもないのにキレーイに「ん」で迎えた最終回。一年間どうも有り難うゴザイマシタの意をこめて、大晦日にはおけら参り行きましょう。祇園・八坂神社に参拝し、火のついた縄を消さずに家まで持ち帰るってお参りです。危ないからって廃止の動きもあったらしいがイキな風習なくしちゃ残念。だから皆様、火傷には注意。

九条ネギ

最終回は弊誌でも高頻度で話題に上るエリアのひとつ。祇園×ぶいぶい=ヤンエグ、という単純な恒等式が成立し得たバブリー時代、謡歌したワンレンボディコン軍団もいまや子をなし、少年犯罪やブチ家出の恐怖と戦う日々ではなかるうか。比して祇園の街並みは、ヤレ若年層カジュアリティ化とはいっても、やっぱり地べた座りは似合わぬ街。どこまで行っても祇園は祇園、しゃんとすべき街なのだ。どこまで行ってもいいけどさ、結局祇園ってどこからどこまでなわけ? という'80年代っぽい問いかけには一応の目安を提示しておきたい。北は白川、南は建仁寺、西は鴨川。そして東は八坂神社前の交差点が「祇園」だが、その南側の坂を上ると下河原界隈。ココもまた祇園のメッカである。四条通のネオンは遠く、静けさが守られた雰囲気の中、既存の料亭に加え「よねむら」や「イルギョットーネ」など、気概と実力十分の若き大物も大挙する近頃。この地区にて次世代の祇園・京都が予感できそうだ。